

平成10年1月 9日  
平成11年5月11日 (一部改正)  
平成13年1月29日 (一部改正)  
平成15年7月24日 (一部改正)  
平成21年7月 8日 (一部改正)  
平成25年7月26日 (一部改正)  
平成29年7月31日 (一部改正)  
教育開発国際協力研究センター運営委員会

## 「国際教育協力論集」刊行規程

(目的及び名称)

第1 広島大学教育開発国際協力研究センター(以下「センター」という。)における、国際教育協力に関する研究及び事業の成果を国内外の学界、援助実施機関等に広く公表し、国際協力事業の推進に資することを目的として、「国際教育協力論集」(Journal of International Cooperation in Education)(以下、「論集」という)を刊行する。

(編集委員会)

第2 1 「論集」の編集は、編集委員会が行う。  
2 編集委員会は、次に掲げる委員、15人程度で組織する。  
(1)センター教員 4人 (2)学内研究員 若干人 (3)客員研究員 若干人  
(4)上記(1)から(3)の職にあった者 若干人  
(5)その他センター長が必要と認めた者 若干人  
3 編集委員は、センター長が委嘱する。  
4 編集委員長は、委員の互選により、センター長が委嘱する。  
5 編集委員長の任期は2年とし、再任は妨げない。

(「論集」掲載論文等の種類)

第3 1 「論集」に掲載する論文等の分類は、以下のとおりとする。  
(1)総説 (2)研究論文 (3)研究ノート (4)調査報告  
2 投稿原稿の分類は、投稿者の申請を基に編集委員会が決定する。

(投稿資格)

第4 1 「論集」の投稿資格者は次のいずれかに該当する者とする。  
(1)センター運営委員会委員 (2)センター所属教員、研究員 (3)客員研究員  
(4)学内研究員 (5)上記(1)から(3)の職にあった者  
(6)その他編集委員会が認めた者  
2 第3第1項第2号の投稿については、第1項第1号から5号の者の推薦があった場合に認める。

(連名での投稿)

第5 第4に定める投稿有資格者は、他の投稿有資格者との連名で投稿することができる。

(投稿件数)

第6 第3第1項第2号については、原則として一人1篇とする。ただし、連名での投稿を含む場合は2篇までとする。

(査読)

第7 全ての投稿に関しては、査読の上、採否を決定する。その方法については、編集委員会において定める。

(著作権)

- 第8 1. 「論集」に掲載された論文等のすべての著作権（著作権法第27条及び第28条の権利を含む）は、センターに帰属する。
2. 著作者自身が自分の論文の全部または一部を複製、翻訳、翻案などの形で二次的著作物として利用する場合、センターの許諾を必要としない。
3. 第三者から、論文の複製、転載などに関する許諾の要請があり、著作者の合意を得た場合は、当該著作物の利用をセンターは許諾することがある。
4. 著作者は、その著作物を原作あるいは、「論集」に掲載された型のまま電子的方式で複製した上で、電子上にて公衆に提供することに許諾したものとす。

(刊行回数)

- 第9 「論集」の刊行は原則年2回とし、うち1回を日本語によるもの、他の1回を英語によるものとする。

(インターネット上での論文等の公開)

(配付先)

- 第10 配布先は、国内外の大学・研究機関、国際協力関係機関等とし、編集委員会において定める。

(体裁)

- 第11 「論集」の体裁は、B5版とする。

(その他)

- 第12 執筆要領等その他の必要事項については、編集委員会において定める。

## 「国際教育協力論集」執筆要領

広島大学教育開発国際協力研究センター  
「国際教育協力論集」編集委員会

- (1) 論文等の内容は、国際教育協力に関するものとする。
- (2) 論文等は、未発表のものに限る。ただし、学会等での口頭発表はこの限りではない。
- (3) 使用言語は、原則として年二回刊行のうち、1号は日本語、もう1号は英語とする。
- (4) 執筆方法は、原則としてワープロ原稿とし、ハードコピー（A4版2部）及びテキストファイルのディスク（使用機種・ソフトを明記）を提出する。「研究論文」の場合は、ハードコピーをさらに2部（計4部）提出する。
- (5) 和文原稿は、A4版横書き（本文縦40行×横40字、10.5ポイント）とし、13枚以内（表題、筆者名・所属、図表、参考文献を含む）を原則とする。原稿は全て、英文タイトル及び英文要旨（300語程度）を別に添付する。英文原稿は、英文執筆要領を参照のこと。
- (6) 全ての原稿は、執筆者名・所属機関名を記入せず、①論文題目（和文及び英文）、②所属機関名（日本語及び英語表記）、③執筆者名（日本語及び英語表記）、④連絡先（住所、電話、FAX、電子メール）、⑤推薦者名（ただし、「センター関係者」以外の場合）を別紙に明記するものとする。
- (7) 必要に応じ、外国人名、地名に原語を用いてよいが、叙述中の外国語にはなるべく訳語をつける。
- (8) 図表、注記及び参考文献の書き方などは、次のとおりとする。
  - ① 図表については、出典を明記する。図表は原則として写真製版するので、完全な原図を作成する。
  - ② 本文における文献引用は、以下のとおりとする。日本語文献は日本語表示それ以外の言語による文献は、アルファベット表示とする。複数の参考文献がある場合は、セミコロンで結ぶ。

「・・・である」(White 1999; Jordan 2000) と言われている。  
・・・と考えられている (Sasaki, Watanabe & Sato 2001)。  
・・・(Sasaki 1999, p.123)。  
・・・(佐々木、渡辺、山本 2000; 田中 2004)。  
・・・村田 (2001) によれば、  
・・・村田 (2001a) によれば、(2001年に出版された著者による引用文献が2冊以上ある場合、2001a、2001bと表記する。)
  - ③ 本文における注の付け方は、(・・・である<sup>(1)</sup>)とする。
  - ④ 注記、参考文献は、論文末に一括掲載する。
  - ⑤ 参考文献の書き方については、以下のとおりとする（英語文献は、英文執筆要領を参照のこと）。

単行本（編者あり）：著者、発行年、「題目」、編者名、『書名』、出版社、頁。

(例) 黒田一雄 (2001) 「教育投資における優先順位の決定と世界銀行」江原裕美編  
『開発と教育—国際協力と子どもたちの未来』新評論、257-269 頁。

雑誌論文：著者、発行年、「題名」、『雑誌名』、巻、号、頁。

(例) 大津和子 (2001) 「タンザニア基礎教育補完センター (COBET) の現状と課題」  
『国際教育協力論集』4 巻 2 号、55-69 頁。

(留意点) 単行本、雑誌、論文ともに句点「、」は、ページ番号の前のみに使用する。  
同じ著者のものは、下線をひく (半角で 5 回アンダーバーをひく) \_\_\_\_\_ また、同じ  
年の出版のものは、(2000a) (2000b) のように表記する。数字はすべて英数半角文字で  
表記を統一する。

学会発表等：発表者 (年) 「発表題目」第 X 回 X 学会 (場所、日にち) 発表

(例) 平野真己 (2008) 「アフリカ経済成長をどうみるか」第 45 回 日本アフリカ学会 (龍  
谷大学、5 月 24-25 日) 発表

URL：(オンラインの表記は下記のようにする)

World Bank Education Lending [http://go.worldbank.org/4H9D7XN5E0] (accessed on  
August 1, 2008).

- (9) 原稿は完全原稿とし、著者校正は初校のみとする。校正の際は字句の訂正にとどめ、加筆  
及び変更は認めない。
- (10) 別刷の著者贈呈部数は 30 部とする。これを越える部数が必要な場合は、個人負担とする。

#### 投稿手続・日程

- (1) 投稿の際には、「研究論文」、「研究ノート」、「調査報告」の別を明記する。全ての投稿原  
稿について、査読の上、採否を決定する。
- (2) 投稿希望者は、次の投稿申し込みあるいは原稿締め切り日までに、広島大学教育開発国際  
協力研究センター「国際教育協力論集」編集委員会に申し込む。

「研究論文」・「研究ノート」・「調査報告」

投稿申込締切：毎年 3 月 31 日 (必着)

原稿締切：毎年 5 月 31 日 (必着)

#### 編集事務局 (投稿・問合せ先)

〒739-8529 東広島市鏡山 1-5-1

広島大学 教育開発国際協力研究センター

国際教育協力論集編集委員会

TEL: 082-424-6959, FAX: 082-424-6958

e-mail: [cice@hiroshima-u.ac.jp](mailto:cice@hiroshima-u.ac.jp)

## **CICE Journal of International Cooperation in Education**

### **Style and rules for contributors**

1. **Journal of International Cooperation in Education** is an international refereed journal published in English in April and in Japanese in October of every year. The journal welcomes articles from authorized contributors (see “2”) on any aspect of international cooperation in education.
2. **Qualification of contributors** is given to the members of the Center for the Study of International Cooperation in Education at Hiroshima University who are currently or were formerly associated with CICE (including CICE staff members, members of the managing committee, research fellows, and visiting research fellows). Contributions for articles may be invited by the CICE Editor-in-Chief. Otherwise submissions from anyone who is interested in CICE activities may be accepted if accompanied by introduction of a CICE staff or associate member.
3. **Manuscripts** should be original, clearly and precisely presented in English or Japanese (see styles and rules for contributors in Japanese). Authors should submit four hard copies of their manuscript plus an electronic file of the manuscript (preferably in a PC compatible disk). Text should be prepared using Microsoft Word software.
4. **Each submission** should be no longer than 7000 words (14 printed pages) in total, including title, author(s) information, tables, figures and references. Each article should be accompanied by an abstract of approximately 150 words typed on a separate sheet.
5. **Preparation of Manuscript:**
  - A. **Cover sheet should** contain title, full name, institution, address, phone and fax numbers, and e-mail address.
  - B. **Text** should be typewritten on one side of A4 size papers with 30 mm margins all around. Each typewritten page should have 42 lines, approximately 500 words with 10.5 point character.
  - C. **References** cited in the text should be arranged alphabetically according to the name(s) of author(s). Text reference should be made by the author’s names followed by the year of publication [e.g. Sifuna (2001), or (Sifuna 2001)]. When papers have three or more authors, please give only the name of the first author followed by et al. [e.g. Kawagoe et al. (1998) or (Kawagoe et al. 1998)] throughout the text.

In addition,

Reference cited in the text should be listed as follows;

<EXAMPLE>

Textbooks are one of the most important learning materials for study (Sasaki 1999; Watanabe 2000) [more than 2 references]

.....(Sasaki, Watanabe & Sato 2001) [written by more than 3 authors]

.....(Sasaki 1999, p.123)

.....According to Sasaki (1999), it is considered.....

.....According to Sasaki (1999a) and Uemura (2002), it is considered.....

**(1) Book:**

Last name of author + first name initial. (year), Title (*Italic*), location of the publisher, name of the publisher.

Lloyd, P.C. (1966). *The New Elites of Tropical Africa*. London: Oxford University Press.

**(2) Book chapter:**

Last name of author(s), + first name initial(s). (year). "Chapter Title", In (Eds.), *Book Title*, (p.), location of the publisher, name of the publisher.

Lloyd, P.C. & White, A. (1996). "Aid, International Co-operation and Globalization: Trends in the Field of Education." In K. King & L. Buchert (Eds.), *Changing International Aid to Education: Global Patterns and National Contexts* (p.60-67). Paris: UNESCO.

**(3) Journal article:**

Last name of author + first name initial. (year). "Title of the article." *Name of the Journal*, volume (no.), p.21-38.

(Example)

Sifuna, D. (2001). "African Education in the Twenty-First Century: the Challenge for Change." *Journal of International Cooperation in Education*, 4(1), p.21-38.

**(4) On-line material:**

World Bank Education Lending [<http://go.worldbank.org/4H9D7XN5E0>] (accessed on August 1, 2008).

Note.

Same author can be indicated as \_\_\_\_\_. Please use (2001a), (2001b), in case there are more than 2 references from the same author in the same year.

- D. Tables** should be self-explanatory and each presented on a separate page outside the main text. A short title should be provided with any additional information contained in footnotes with a lucid legend to explain the meaning of the content.
- E. Figures** are referred to for all drawings, diagrams, graphs and photographs. These should be of the highest quality and suitable for direct reproduction. Each figure should be presented on a separate page.
- F. Place** of insertion of tables and/or figures in the text should be indicated on the right-hand margin of the sheet.
- 6. Whether or not the manuscript** is accepted and the timing of publication is decided by the Editorial Committee. The positions and scale of figures and tables in published pages may be changed from the author's designation.
- 7. Galley proof** will be sent to the corresponding author if there is sufficient time to do so. The authors are responsible for reading the first galley proof. No change of the content of the manuscript is permitted on the galley proof without the consent of the Editor-in-Chief.
- 8. Offprints.** Authors will receive free of charge 30 offprints. Additional copies can be obtained at author's cost.
- 9. Copyright.** The articles published in the *Journal of International Cooperation in Education* are subject to copyright. All rights are reserved by the Center for the Study of International Cooperation in Education (CICE), Hiroshima University. Authors may, of course, use the article elsewhere after permission is obtained from CICE.
- 10. Submit all manuscripts** to Editor-in-Chief, Center for the Study of International Cooperation in Education (CICE), Hiroshima University, 1-5-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima 739-8529 JAPAN. For any questions regarding this style and rules, please e-mail: [cice@hiroshima-u.ac.jp](mailto:cice@hiroshima-u.ac.jp).

## 『国際教育協力論集』編集委員会

委員長：吉田 和浩 広島大学教育開発国際協力研究センター  
委員：石田 洋子 (広島大学)  
堀田 泰司 (広島大学)  
大場 麻代 (帝京大学)  
小澤 大成 (鳴門教育大学)  
川口 純 (筑波大学)  
日下部達哉 (広島大学)  
小塚 英治 (国際協力機構)  
澤村 信英 (大阪大学)  
正楽 藍 (神戸大学)  
丸山 英樹 (上智大学)

本誌の編集方針・規格の審議、原稿の審査などは上記編集委員会が行います。  
なお、「研究論文」については査読を行い、その掲載の可否を決定しています。

## 編集後記

.....

今号は研究ノート6本、調査報告1本が提出され、計7本の論文が掲載されることとなった。まず、寄稿者の皆様に御礼を申し上げたい。研究論文の提出が近年少なくなってきたことは、比較教育学をはじめ、国際教育開発論における研究のグローバル化が影響していると考えられる。本誌英語版がオープンアクセス化したことは、分野では画期的な動きであったことは間違いないが、日本としての動きは緩慢であったと言わざるを得ないだろう。日本のこうしたモダリティの変化にあたり、和文紀要としても改革を必要としている。そのため、誰のために、また誰に届けられるべき論文なのか、を再検討し、分野への変革をもたらす学術誌になっていかなければならないだろう。またあるいは役割を終えたと判断すれば、発刊を終了することも躊躇なく判断しなければならないだろう。

(日下部達哉)